

相生山緑地 オアシスの森くらぶ ニュースレター29号 2007.1.27発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人 大館 学
編集長 近藤 真史

定例活動／10月28日(土)「第8回どんぐり祭り」

近藤 真史



よーし、一番高いとこまで
がんばって登るぞ～！



この竹のおもちゃ
ほしいなあ…



わたしの竹てっぽうも作って～

作り方教えてあげるから
自分で作ってみよ～

良く晴れた土曜日、8回目を数える恒例イベント“どんぐり祭り”が開催されました。

昨年に引き続き、地域情報紙「ショッパー」にも掲載してもらいましたが、10時のスタート時点では人の集まりが芳しくなく、やや不安な出だしとなりました。それでも徐々に家族連れなどが集まりだし、いつの間にか盛況となって一安心。

祭りのメニューは、相変わらず子どもたちに大人気の木登り体験をはじめ、竹クラフトや丸太切りなどの定番に加え、急きょ阿部さんが子どもたちを集めて虫取り探検隊を結成。

最後に天白土木事務所から提供された文房具セットが子どもたちに手渡され、クラフトで作った竹てっぽうや焼き印の入った丸太の輪切り、八事の蝶々などの手みやげとともに、秋のさわやかな一日の思い出を持ち帰っていきました。

うまそうな豚汁！
いただきます～す！



おかあさんといっしょだけど
ボクもがんばるっと！



おねえさんのオカリナ
じょうずだね

えっ、
おねえさん？

まだ、おねえさんで
いいのよ！

チョウチョやトンボなんか
捕まえられるといいなあ



ボクって色つけの
才能あるでしょ？



ヨイショ、ヨイショ、
腕が疲れてきたけど
最後まで一人でがんばるぞ～



中部の未来創造大賞 (優秀賞) 受賞！！

新しい時代にふさわしい中部の発展と啓発を促進するため、国土交通省中部地方整備局をはじめとする多くの団体で構成された中部の未来創造大賞推

進協議会から、わが相生山緑地オアシスの森くらぶが優秀賞として表彰されました。11月8日名古屋ドームで表彰式が行われ、賞状と優秀賞の賞金5万円をいただきました。賞金は「雑木林塾」などの講座の充実のため使わせていただきます。(大館)



第1回雑木林の達人養成講座／10月14日(土) 「雑木林の達人入門」

近藤 真史

雑木林の達人養成講座は、全5回の座学やフィールドワークを通して雑木林管理の達人を目指すもので、天白生涯学習センターが主催し、当くらぶが運営を支援しています。

* * *

第1回は、当くらぶではすっかりお馴染みの川尻先生を講師に招き、雑木林の達人入門と題した講座が行われました。当日の参加者は、一般参加者20名と当くらぶ会員10名が集まり、午前中の座学が行われた相生小学校の会議室はほぼ満席状態。ここでは、ヨーロッパやアメリカなどワールドワイドな森林の話も繰り広げられ、流暢な川尻

節にみなさん聞き入っていました。また、当くらぶ会員の小池さんからは、名古屋市の雑木林の状況について解説が行われました。



▲名古屋市の雑木林の状況を解説する小池さん

午後は、実際に相生山緑地に出向き、



▲カシナガに冒されたコナラの前で対処方法などを解説する川尻先生

林内のいろいろな植物に触れながら、それらの特性や名前の由来などを教わりました。また、最近被害が広がりつつあるカシナガ（カシノナガキクイムシ）に冒されたコナラのところでは、その対処方法などの話を聞くことができ、一般参加者のみならずくらぶの会員も興味津々の一日でした。

第4回雑木林塾／11月3日(金・祝) 「雑木林の昆虫たち」

阿部 龍雄

11月3日「第4回 雑木林の昆虫たち」として講師に大角守（昆虫研究家）さんを迎え、雑木林塾が開かれました。



▲午前中の座学風景

午前中は山根コミセンで天白区及び相生山緑地に見られる蝶類を中心に話していただきました。大角さんは昭和47年から約35年天白区で蝶の観察され

ていますが、天白区で見られなくなった（絶滅した？）蝶は、ヒメヒカゲ（島田湿地で昭和52年が最後の確認）、ミドリシジミ（天白溪で昭和60年ごろを最後に）で、さらにツマグロキチョウも最近確認できていないとのこと。反対に以前見られなかったのに近年普通に見られるようになった蝶は、ツマグロヒョウモンやナガサキアゲハ、そして最近ではムラサキツバメシジミ等だそうです。環境の変化が蝶たちにもおよんでいることを知りました。

午後は相生山緑地での観察です。11月上旬という時期のため、多くの昆虫は見つけることが出来ませんでした。トンボ池のエノキの葉にゴマダラチョウの幼虫を確認できたのは収穫でした。



▲運良く出会えたゴマダラチョウの幼虫

また参加者の中から、6月ごろ炭焼き釜の付近でウラゴマダラシジミが見られるとの報告があり、その付近のイボタノキに卵を捜したりしました。残念ながら卵の発見は出来ませんでした。相生山緑地の変化が実感される有意義な一日でした。

今回は蝶の話題が中心でしたが、トンボや甲虫等はどのようになっているのか気になりました。今後はそのような話が聞けるといいと思っています。

「菅田収穫祭に参加」

中島 巳治男

11月25日（土）10時より12時まで山根公園にて菅田収穫祭に参加、地域住民との親睦もかねて竹工作を実施しました。内容は、野菜鉄砲、空気鉄砲で

す。当初、参加予定は50名くらいと踏んでいましたが、実際は80名弱の参加で材料切れの心配をするほど大忙しでした。

子供たち、おじさん、おばさんも大喜びでノコギリ、ナイフ、ナタなど使い、各自オリジナルの鉄砲をつくって

いました。

終了後は、新米のオニギリとトン汁を頂き参加者一同大満足でした。ケガも無く無事終了しました。森さん、熊岡さん、中島（ひ）さん協力ありがとうございました。

定例活動／12月23日（土） 「門松づくりと周辺整備」

伊藤 晶子

穏やかに晴れて気温もまばら。新しいメンバーも3名加わり、「暖冬でありたいねえ。でも少し怖いね。」などと話しつつ、山根口へ移動。

午前は全員で門松づくりに集中。各自が作業を分担して昼食前に出来上がりました。今年は竹工作名人の森さんのノコギリの冴えで青竹の切り口が美しく仕上がりに、松、梅、南天などを添えると見事な出来栄となりました。散歩途中の人々も足を止めて見ほれていました。

午後は滞っていた諸々の作業に精を出しました。山根口付近の竹林を切り払った場所にヒコバエガでできたので、それを刈り取ると赤い実を付けたヤブコウジやセンリョウが元気に育っていました。小屋近くの梅林の下草刈りと枝の剪定で周囲が明るくなりました。また、野辺の小径北側のマダケに大量のテングス病が出てきたため、この場所は森にすることにしてマダケを切り倒しました。

作業終了後には全員がぐったりと



▲年を重ねる度に手際も良くなり、出来栄も大満足！

なりましたが、森の健康のためと思えば心地よい疲労でした。

第5回雑木林塾／1月14日（日） 「雑木林の野鳥たち」

小池 敦夫

野鳥の会会員の古澤頼一さんを講師としてお招きし、参加者13名で第5回の雑木林塾を開催しました。

快晴の中、カラスに追われたハイタカやオオタカを観察しながら、毎年恒例の巣箱の清掃を行いました。巣箱は主にシジュウカラが利用できるように入り口として直径2.8cmの穴をあけ、毎年4～6月の繁殖期にシジュウカラが利用し、その後土蜂などのハチ類が巣を作るためのものです。そのため、毎年冬の間に中を掃除してやる必要があります。

昨年度は営巣率1割強と寂しかったのですが、今年は営巣率3割、途中放棄やねぐら利用も含めると7割近くもあ

り、掃除のしがいもありました。シジュウカラは1年で12万匹以上もムシを食べると言われており、森の生態系維持に重要な役割を持っているとの事。今さらながら森の野鳥たちの働きを再認識した3時間でした。



▶竹の棒を巧みに操って巣箱を降ろし、中の掃除をして再び元の場所にか

会員募集中！

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

- ◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
- ◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
- ◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
- ◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
- ◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円（保険料含む）です。主に連絡、郵送費です。

○振り込み先（郵便局）

オアシスの森くらぶ 00860-7-33725

連絡は事務局までどうぞ

定例活動スケジュール

集いの広場
10時集合

2月24日(土) アカマツ林再生プロジェクト

3月24日(土) 雑木林の味わい方

第6回雑木林塾を兼ね、白石公二さんを講師に迎えて森の恵みを存分に味わいます。

4月28日(土) 2007年度総会

次年度の活動内容などを決めますので、是非ご参加下さい！

ホームページ管理・作成 スタッフ 大募集!!

“森くらぶのホームページをもっと楽しくしたい！” “定例活動には出られないけど、自宅できるとなら手伝いたい”等々、ホームページに興味のある方、是非ご一報を!!

【連絡先】

masashi_k@muf.biglobe.ne.jp（近藤）

情報センター

■参加申込みやお問合せなど

事務局

伊藤百寿人 052-895-8523

中島己治男 052-803-9534

■ホームページをご覧下さい

URL address : <http://f44.aaa.livedoor.jp/~oasis/index.html>

★ ニュースレターのカラー版（PDFファイル）がダウンロードできます。

★ 定例活動・特別活動の報告や予告（チラシ）を随時更新しています。

定例活動・第2回雑木林の達人養成講座／11月25日(土) 「竹と雑木林」

真弓 浩二

日頃、相生口・山根口の竹林での竹伐り活動や、竹炭焼き活動に勤しんでいる森くらぶですが、改めて「竹と雑木林」をテーマに第2回雑木林の達人養成講座が催されました。講師には、竹筴研究会の解語玄さんをお迎えし、午前中の座学、午後のフィールドワークに、約25名の参加者は、楽しみながら学ぶことができました。

解語さんは、以前よりタケ・ササについて市民研究家の立場で関わられ、猪高緑地の竹の侵出について広く市民にアピールされるなど、放置された竹

林の問題や竹や笹の魅力や啓蒙・普及されている方です。これまで度々森くらぶの活動へも参加頂いており、われわれにとってはなじみのある方です。



▲タケやササについて熱く語る解語さん



▲相生口の竹林にて

午前中の座学では、竹・笹研究の第一人者とも言える室生絆さんや竹資源活用フォーラムの内村悦三さんとの交流のエピソードを交えながら、竹の種類、性質、適切な竹林管理の方法について、たくさんのお話を伺いました。

第3回雑木林の達人養成講座／12月16日(土) 「竹炭焼きと竹のクラフト」

村田 英二

12月16日開催の達人養成講座は、遠路岐阜より竹文化振興協会の松本岐阜支部長始め多くのスタッフが相生山に駆けつけてくれました。

午前中は座学で、竹に関する基礎知識、竹炭焼きの基本及び竹クラフトガイダンスでした。松本支部長の講義は、竹への情熱が肌に伝わるものでした。特に食材としての竹の有用性に関するくだりでは、聴いている自分自身タケノコを食したい衝動に駆られました。

午後は竹のクラフトの実践です。私は竹の花瓶と竹ひごによる風車を制作しました。花瓶は、竹の節を柄に用いるもので面白いアイデアだと感心しま

した。風車は森くらぶの会員でもある辻本さんに指導を受けましたが、さっぱり編むことが出来ず、全部辻本さんに作ってもらいました。(恥ずかしい)



▲午後のクラフト制作風景

何はともあれ、時間を忘れてクラフ



▲見本として展示された見事な作品

トを楽しむことができました。

最後になりましたが、協会の方々へお詫び申し上げます。当日の講座受講生が少なく、大半森くらぶの会員が受講することとなりました。遠方より多くのスタッフに来ていただいたのに本当に申し訳ありませんでした。これに懲りずに今後とも、相生山オアシスの森くらぶをお引き立て下さい。

シリーズ『森の住人たち』⑬

～ウソ(鶯)～

花のつぼみを食す グルメな鳥



鳥の声が聞こえた。植物観察の視線をおもむろに空に転じる。いる、いる、10羽程のシルエットが見える。双眼鏡でのぞくと、黒い頭と喉から頬にかけて紅色の鳥、ウソ(鶯)の群れだった。木の芽を食べているようだ。すっかり木の葉を落としたそれは、樹皮でヤマザクラと知れた。一説にはソメイヨシノ(染井吉野)の花芽しか食べないというが、本当はどうなのだろう・・・。ウソは「フィー、フィー」とか「ヒュー、ヒュー」と澄んだ声で鳴き、口笛のように聞こえる。

名前はウソ、ホントのウソではなく、「うそぶく」の意味からきている。「とぼけて知らないふりをする」の他に、「口笛を吹く」という意味もあり、これが名前の由来だそうだ。

スズメ目アトリ科

全長 16cm 環境 夏期は高山帯で繁殖。冬期は低地の森・丘陵地など

夏は高山の針葉樹林帯で繁殖し、冬は低地の森に移動してくる。

双眼鏡を持つ二人連れが通りかかり、何があるのかと問う。頭上の梢にウソ(鶯)がいることを告げる。男性はすぐさまその鳥の姿をとらえたが、女性はなかなか確認できない様子だ。位置を細かく何度も説明すると、女性はようやく確認できたようだ。久しぶりに出会ったと、笑みをたたえて二人が立ち去った。そうそう、私自身もこのところウソと出会ったのは、切手の図案・・・。1月中旬には、全国各地の天満宮で「ウソ替え」の神事があり、ウソと出会える。ただし木製。

やはりバードウォッチングは、森に限る！

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)